

1. 評価報告概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	1970800874
法人名	特定非営利活動法人 ふるさと
事業所名	グループホームふるさと竜王
所在地	〒 400-0114 山梨県甲斐市万才449-5 電話番号 055-279-2796

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	山梨県甲府市北新1丁目2-12号		
訪問調査日	平成21年1月14日	評価確定日	平成21年3月10日

【情報提供票より】平成20年12月10日 事業所記入

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年1月19日			
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9	人
職員数	8人	常勤	5人	非常勤 3人 常勤換算 5人

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨 造り
	2 階建ての 1 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	38,000 円	その他の経費(月額)	68,000 円	
敷 金	<input type="checkbox"/> 有() <input checked="" type="checkbox"/> 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="checkbox"/> 有(100,000円) <input type="checkbox"/> 無	有りの場合 償却の有無	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	600 円
	夕食	600 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 0 円			

(4) 利用者の概要 平成20年12月10日 現在

利用者人数	8 名	男性	3 名	女性	5 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名		
要介護3	2 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 81 歳	最低	63 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	花の丘たちかわクリニック
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】作成日 平成21年2月9日

幹線道路から住宅地に入る道を行くと、住宅の密集している一角に、近隣と溶け込むように、事業所は位置している。開設から5年、今年初めて地区のゴミ当番になり、鍵を預かり、利用者と共に清掃をし、地域の役割の一端を担っている。利用者の一人は、愛犬「チョコちゃん」と一緒に暮らし、職員と共に毎日の散歩を欠かさず、地域の人達と挨拶を交わすなど、自然な形で、地域住民として生活をしている様子が伺われる。理事長を核に、管理者、職員の自然体で明るい支援は、利用者のゆったりとした穏やかな表情に表れ、ほっと安心できる家庭的な事業所である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題と今後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回、簡単明瞭な新しい理念を思案中との、取り組みについて、全職員で考え、解りやすい言葉で、新しい理念をつくりあげ、玄関に掲示してある。 改善シートを作成する取り組みについては、実践しており、改善点が、解りやすく役立っている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は全職員で話し合い、取り組み、管理者がまとめている。評価の目的や活用方法をよく理解し、さらに質の向上に繋げている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 甲斐市福祉課長、民生委員、家族1名、理事長、管理者の5名のメンバーで、2か月に1度、開催している。ホームからテーマを決め、意見交換がなされている。年に2度、ホームの行事に、委員全員が参加をして頂き、利用者の様子や実際を見て、サービスの質の向上に繋げている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族が、意見、不満、苦情が気軽に言いやすいような雰囲気づくりに努めている。家族が毎月の利用料金の支払いに来た時に、利用者の暮らしぶり等を報告している。また、電話で密に連絡をし、家族の気持ちを聞いている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 住宅密集地にホームがあることから、日常的に地域との交流はとれている。散歩の時に、挨拶を交わしたり、今年は地区のゴミ当番になり、地域の役割を担うなど、地域との連携はよくとれている。

2. 調査報告書

事業所名：グループホームふるさと竜王

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	前の理念は、難しく、馴染めないという事で、全職員で話し合い、「ちいきにとけあい、いきいき、きごころしれたなかになる」と解りやすい理念をつくりあげ、玄関正面に大きな字で掲示してある。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝、職員は、理念を読みあげ、その気持ちを大切に、管理者と共に確認し合い、利用者中心に、地域に溶け込むことを、心に刻んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地域の行事(どんど焼き、諏訪神社の祭り)に参加をしている。今年は、地区のゴミ当番になり、鍵を預かり、利用者と共に清掃をし、地域の一員として、役割を担っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価の意義をよく理解し、全職員で話し合い、管理者が作成している。外部評価については、改善シートを作成し、目的が達成できるようにしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	甲斐市福祉課長、民生委員、家族1名、理事長、管理者、5名で開催されている。ホームからテーマを決めて、意見を頂いたり、話し合いを行っている。納涼会、クリスマス会には、運営委員全員の出席をして頂いている。民生委員の協力により、地域交流も深まっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	利用者の経済的、家族間の問題について、市の福祉課長、保健師等が、窓口となり、話し合いを行うなど、お互いに、ざっくばらんに何でも言い合える関係が築かれている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ふるさと便り(年2回)家族に郵送している。家族が、毎月の利用料金の支払いにホームに来た時に、利用者の暮らしぶり等を報告している。また、個々に理事長が電話で密に連絡をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に、苦情箱を設置してある。家族が、意見、苦情を言いやすいような雰囲気づくりに努めている。「家族会」をつくって頂くことを事業所側から、家族に働きかけ、さらに意見を出しやすいように努力をしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は行っていないが、体調不良で離職をした時は、馴染みの関係ができていた理事長や管理者が、細やかな対応をして、利用者の不安等を緩和している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新任職員は、現場研修(1か月間)を必ず受けている。社協の研修、認知症実践者研修等に参加をし、研修の後は、必ず伝達講習をしている。NP主催の研修にも参加をし、NPO法人「ゆったり」の回覧をし、レベルの向上に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム連絡会や県グループホーム協会の研修会等に参加し、意見・情報交換を行う機会としている。また、管理者が研修で他事業所を訪れた際に新しい発見があり、サービスの改善につながったこともあるため、より実践的な交流が、サービスの質を高めるために有効であることを感じている。	○	同業者との実践的な交流は有効と考えているため、事業所の現状も踏まえた上で、実現可能な交流について、職員と話し合ってもらいたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	いきなりの入居ではなく、まず、家族が数回、ホームの様子を見学し、本人の理解を得てから、入居に繋げている。また、職員が、自宅訪問をして、利用者の環境把握に努め、安心して馴染める工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者から、正月飾りや着物の着付けなど、古くからの文化を具体的に教えて頂いている。利用者が外出先から、ホームに帰って来た時、我が家に帰って来た様に「ホッとしたよ」との一言を聞くと、職員も仕事の喜びを感じている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族から、本人の希望等を聞き、毎月行うケアカンファレンスの中で、全職員が共有している。今年度より、センター方式を取り入れているが、思いや意向の把握の部分の活用が、充分できていない。	○	センター方式を取り入れ、努力をしているが利用者の願や思いを、センター方式に文章化し、職員全員が共有していくことが望まれる。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月に1度のケアカンファレンスを行っている。家族からも意見を聞き、型にはまらず、自由な話し合いを持ちながら、全職員で介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の日々の生活の中で、細かい変化に気づいた時点で、その都度、家族と話し合いを行いながら、随時、見直しを行い、新たな介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	新聞の「お悔やみ覧」を見て、後日、「お悔やみ」を届けに、職員は同行している。お墓参りや、美容院の送迎、また散歩の途中、利用者の家に寄る等、本人の希望を叶えるように行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれの希望するかかりつけ医への受診は、原則、家族が同行する事となっているが、状況に応じ、事業所側が対応している。精神科医が協力医として、利用者の健康管理をして頂き、往診を受けられる支援をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期ケアは、原則として行っていない。入居時に家族に説明すると共に、医療行為が必要な時は、家族と話し合いながら、適切な医療機関につなげている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレ誘導など、介護度の重さに差があることから、職員は、そっとさりげなく、他の利用者に、わからないように、言葉かけや対応をしている。職員の細かい配慮から、オムツを外せた利用者もいる。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大体の一日の流れはあるものの、利用者のその日の希望にそって支援をしている。犬の散歩に行く時も、職員は「ちょっと待っててね」とは言わないようにして、他の事を依頼し、少しの時間をつくるなど、利用者のペースを大切にしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ジャガイモの皮をむく等、準備から、食後の後片付けまで、一人ひとりできる事を自然にしている。職員も共に同じものを食べ、穏やかに言葉かけをしながら、同じテーブルで食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	同性職員が対応し、自由にいつでも入浴できる体制を整えている。入浴拒否する利用者には、入浴剤や、ゆず湯にしたり工夫して、入浴支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎朝、新聞を持ちに行ってくれる人、裁縫の得意の人、愛犬と一緒に暮らす人、それぞれの生活歴に応じた暮らしができるようにしている。季節ごとのお花見やイチゴ狩り、また月に1度の外食等、折々の楽しみ事の支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎朝、犬と散歩に行ったり、近所の「百円均一」のお店に買い物に行ったり、車椅子の利用者も一緒に、個々のペースに合わせて外出を支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は職員の見守りのもと、玄関には鍵をかけないケアを実践している。外に出てしまう利用者には、職員が同行し、利用者が納得するまで付き添っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	4月には火災訓練、9月には地震訓練をしている。食料、水の備蓄はあり、防災頭巾は居間の椅子にそれぞれ置いてある。避難場所はホームの隣の畑と決めてある。地域の防災訓練にも参加をし、両隣3軒には常に協力の依頼をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事記録があり、栄養士の資格を持っている職員がチェックをしている。水分もこまめに飲用し、水分量、栄養摂取量の把握はできている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓から暖かい陽ざしが入り、トランプをする人、テレビを見ている人と、自然にみんな集まり、居心地のよい居間となっている。居間の続きに台所があり、食事の匂い、茶碗を洗う音など、生活感が漂っている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	愛犬と暮らしている利用者の部屋は、その人らしさを感じたが、その他の利用者の部屋は、収納庫が広い為か、衣類、寝具等、きっちり納まっており、使い慣れたものなどは、ほとんど置かれてなく、生活感があまり漂っていなかった。	○	どの部屋も清潔感が保たれているが、居室の環境づくりは、利用者にとって大切な事です。家族と相談しながら、馴染みの物など、個別に応じたその人らしい居室の工夫をしていくことが望まれる。